



Tableau でデータファブリックを 最大限に活用

拡張可能なセルフサービス分析と最新のデータガバナンスによって、価値創出までの時間を短縮



目次

はじめに.....	3
今、なぜデータファブリックが重要か	4
データ分析の需要は高まっている.....	5
データ管理の実践が追いついていない.....	6
データ管理はまだ少数の人の手に委ねられている.....	6
Tableau とデータファブリック.....	7
価値創出までの時間	8
データの理解.....	10
データ投資の進化.....	11
まとめ	13
Tableau について	14





はじめに

データは現代の企業にとって心臓の鼓動のようなものです。そして、データの需要はかつてないほど高くなっています。不透明さと複雑さが高まる時代、データを活用して意思決定を行いましょ。

今ではあらゆるビジネスがデータビジネスとなり、データ管理の方法にも大きな影響を与えています。かつてはデータの取得、保存、処理、管理で問題なく機能していたプロセスも、ビジネスデータの量と種類の増加に追いつくことができず、情報アーキテクチャの脆弱性が露呈しています。ビジネスでは、コスト削減や生産性を念頭に置いて、より良いユーザーエクスペリエンスを提供する革新的、柔軟、かつ機敏なデータ管理プログラムが求められています。情報にアクセスしたい事業チームのニーズと、それに制限をかけようとするIT部門のニーズがぶつかり合い、シャドーITという抜け道を使う側と、監視するデータ技術者の間で対立関係が生じています。

成功を収めているITリーダーたちは、データ戦略の設定、データ管理への投資、運用の簡素化を行っています。今では、Customer 360 に導入された Tableau により、実用的なインサイトをリアルタイムで提供するところまでできています。つまり、意義のある変化が、データによって促進されているのです。

ミッションは明確です。組織は、リアルタイムなインサイトをサポートする信頼できるデータ基盤の上でデータを提供することを目指し、データアーキテクチャと統合に関する課題に戦略的に取り組む必要があります。これに優先的に取り組まなければ、競争優位性、コンプライアンス、そして予算がリスクのある状況に置かれ続けることとなります。

こうした理由で、データファブリック設計がデータアーキテクチャの重要課題として急速に拡大してきました。データファブリックとは簡単に言えば、データの所在場所に関わらず、あらゆる種類のデータの管理、共有、利用を支援するために互いに連携するデータ管理ツールの集合体です。

データファブリックは、適切な規模のデータガバナンスを備えたセルフサービスによるリアルタイムなデータ分析を可能にします。そして、データの所在地に関わらず誰もが連携した高品質なデータを利用するという共通ビジョンの下で、事業部門のユーザーとIT部門を結び付けます。こうして実現する世界では、連携した管理機能、一元的なガバナンス、セルフサービスという複数の管理スタイルがシームレスに機能します。

企業は5年前と比べて

10倍
のデータを
管理している。

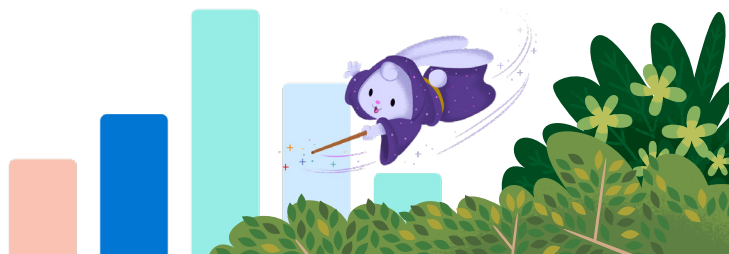
企業は平均

900の
アプリケーション
を使用しているが、その
1/3しか連携していない。

10人中9人の
ITリーダーが、

データサイロが原因で
コスト非効率性、
データ統合エラー、不正確な結果、
意図しないデータ削除が生じ、
ビジネスの混乱や信頼の失墜を招
いていると指摘している。

出典: Tableau の後援による IDC ホワイト
ペーパー「データカルチャーはいかにして
データドリブンな組織のビジネス価値を
高めるか」



データファブリックをサポートする TABLEAU 製品

Tableau →

Tableau Data Management →

(Tableau Prep Conductor と Tableau Catalog を含む)

Tableau Advanced Management →

Tableau Prep Builder →

(Tableau Creator ライセンスに含まれる)

データファブリックの能力により、データから情報を引き出し、アプリケーションを相互接続し、変化するデータ環境に動的に対応することができます。今後はこれが業務の中心に据え置かれ、自動化の促進からスマートでデジタルファーストなエクスペリエンスまで、あらゆる変革を支えるでしょう。こうしたすばやく構成できる設計に移行する組織では、開発者、非開発者を問わず、より多くの人々が安全、効果的かつスムーズにデータを使用できるようになります。

Tableau 製品スイート (サイドバー参照) は、データファブリック設計をサポートおよび強化し、こうした変革を加速させます。Tableau はスキルレベルに関係なく簡単に使用できるため人気があり、データ分析の普及に貢献しています。Tableau はセルフサービスを重視しています。あらかじめ組み込まれたガバナンスを使用して、ユーザーは関連性のあるコンテキストリッチなデータを発見し、準備することができます。お客様組織はデータの存在場所に柔軟に接続でき、こうして最新型の連携データ環境が実現します。必要とされる規模をサポートするために、Tableau では、信頼できる単一の情報源を活用した直感的で信頼できる分析機能によって、データライフサイクルの全体にわたってデータの自動化と運用化を行うことができます。

AI の導入によってデータおよび分析の需要が高まる中、企業は新しいデータ管理設計を活かして従来のデータ課題を飛び越えたいと考えています。データファブリックに対する Tableau のアプローチはビジネス価値を重視しており、ビジネスを前進させます。

今、なぜデータファブリックが重要か

エンタープライズデータの全体像は巨大です。そして、それにアクセスして理解する需要も大きく膨れ上がっています。「ビッグデータ」という流行語自体は廃れてきたかもしれませんが、企業は引き続き、複雑化した大量のデータを高速に生成しています。この状況はすぐには変わらないでしょう。マクロ経済の状況が不安定で、ほとんどの企業の成長目標がますます逆風にさらされているにも関わらず、企業に対する顧客の期待が和らぐことはありません。組織の成功、短期間での価値創出、リスク軽減のためのスマートかつ戦略的な意思決定をする上で、これまで以上に生産性、効率性、自動化が鍵となるでしょう。



データ活用に対する期待は、それに応えるツールの進歩の速度を常に上回っています。従来からのビジネスインテリジェンスシステムや複数のデータストレージソリューションにより、また新しいチームやイノベーションが生まれるたびに、データサイロが次々と形成されます。データサイロが多ければ多いほど、データ重複、データ品質、セキュリティ、プライバシーの問題といったリスクが生じます。IT部門はしばしば、このプレッシャーに対処するためにアクセスを制限し、データソースをロックダウンしようと試みます。

データ分析の需要は高まっている

データや AI への取り組みが自社に価値を生み出すという測定可能な証拠を、ほとんどのビジネスリーダーがある程度持っています。今日、こうした成果は一般的に IT 組織や個々の部門に限られており、それぞれが独自のビジネスケースに試験的に取り組み、専用のアプリケーションやデータリポジトリを使用しています。

企業がデータの理解を重視するようになると、IT部門だけでなく、すべての従業員がデータを理解する必要があることにすぐに気づきます。Tableau が委託した 2022 年の Forrester Consulting の調査 (英語) では、82% の意思決定者が、プロジェクト管理、コミュニケーション、コンピュータスキルよりもむしろ、最低限の基本的なデータリテラシーを各部門の全社員に期待していると回答しています。

データリテラシーの取り組みが成熟していて、データを活用した分析、探索、意思決定、コミュニケーションを行うスキルがある企業では、イノベーションの促進、カスタマーエクスペリエンスの向上、意思決定の改善、コスト削減、従業員の定着率の向上、収益の増加など、劇的なメリットが得られています。成熟度の高いプログラムは、成熟度の低い取り組みよりも 10% ~ 50% 高い効果が得られると報告されています。

企業は、データ環境と管理手法を改善してワークフォースの需要に応えるためにデータファブリックに期待を寄せています。MuleSoft の調査 (英語) によると、企業の意思決定者の 36% は、非 IT ユーザーがアプリとデータを統合できるようにする手法がすでに成熟していると回答しました。半数近くが、セルフサービス型統合機能に焦点を当てた計画をまだ策定中であると回答しています。

Tech Republic

Tech Republic は Tableau を、統合機能と使いやすさの点で最高レベルの BI ツールの 1 つに挙げています。



データ管理の実践が追いついていない

データ利用者にとって大変なことは、データ分析の実行そのものではなく関連作業です。つまり、関連性の高いデータを見つけ、効果的かつ適切にデータを組み合わせ、データを保護/管理し、疑問に答える正しいデータであると信頼することです。従来のデータ設計は、処理が遅く脆弱であるため、迅速なデータディスカバリやライフサイクル管理に向いていません。

米国のオフィス専門職 1,000 人を対象にした最近の調査 (英語) では、調査対象者の 57% が、企業が将来的にリモートワークをサポートするために解決しなければならない主な 3 つの問題の 1 つは、必要なファイルやドキュメントをすばやく見つけることだと回答しています。

IDC の調査によると、2021 年に保存/保持された新しいデータは 2% 未満です。残りは一過性、または一時的にキャッシュされ、その後上書きされています。どのデータを保存すべきかを決定する包括的なプロセスがないため、企業は履歴データを失い、利用可能なデータの品質に疑問が生じています。

データ管理はまだ少数の人の手に委ねられている

多くの組織は、データドリブンの目標を優先し従業員のスキルアップを目指すことで、データカルチャーの構築に向けた正しいステップを歩んでいます。しかし、テクノロジー基盤は従来の制約を助長し続けています。つまり、テクノロジー基盤は依然として少数の技術専門家向けに構築されているのです。

数多くのデータガバナンスプロジェクトが、企業のデータカタログやウェアハウスだけを対象に作成されてきました。ほとんどの場合、そうしたプロジェクトはそこに留まり、効果が事業部門に及ぶとしても何年も後で、ニーズがすでに変化してしまっていることもよくあります。これでは、組織の真の変革になっていません。

ユーザー数とデータ量が増加するにつれて、企業はより多くの人にデータを開放する方法を見直す必要があります。エンタープライズデータ全体における可用性、コンプライアンス、最適化だけでなく、事業部門のユーザーとデータ所有者の間の知識共有を促進することが、すべての人にとって優先事項になっています。今後数年間で、企業はデータファブリックの設計を繰り返し、DataOps アプローチを活用して IT 部門と事業部門の連携を強化することで、迅速に成功を収めて真のデータカルチャーを築いていくでしょう。

従来のデータ管理手法では、IT 部門と事業部門のリーダーが別々の陣営に属し、誰がどのデータを取得できるか、どのようにモデル化するかといった決定は IT 部門と技術データスチュワードに委ねられていました。その作業に事業部門のユーザーが関与する余地はありません。しかし実際にビジネスに通じていて、データの意味や関連性を理解し、どの値が間違っているかを見分ける能力があり、コンテンツのメタデータにどの値を追加したら良いかを知っているのは、事業部門のユーザーなのです。

データから情報を引き出す能力とデータを統合する能力が必須であると考えられる役割 - トップ 3:

49%

データアナリスト

44%

ビジネスアナリスト

42%

カスタマーサポート

出典: MuleSoft、
2022 年コネクティビティ
ベンチマークレポート (英語)
(Deloitte Digital との共同調査)



Tableau とデータファブリック

Tableau の信念は、誰でもデータを使えるようにすることです。データ管理の主導権を握るのは、データを知っているユーザーであるべきです。Tableau は、データの種類やその存在場所に関わらずセルフサービス分析を可能にすることを目標に、エンジニアリングに関する投資、エコシステム内のパートナーシップ、全体的なビジョンを、データ環境の進化に合わせて調整しています。

どのようなデータファブリックを構築する際にも、データ統合とガバナンスが絶え間なく進化し続ける領域であり、データやコンテンツの種類によって異なる管理方法が必要となるということが前提とされます。こうして企業のさまざまなアプリケーションとシステムから、統合されたセマンティックリッチなデータが利用者に提供されます。さらに、従業員のスキルの変化や新しいユースケースの開発に合わせて、データプロセスを定期的に評価する必要があります。

一般的なデータファブリックは「ハブ & スポーク」モデルであり、中央のデータ管理システムがどのデータを事業部門にプッシュできるかを決定します。しかし Tableau は逆のアプローチを取ります。Tableau では、ビジネスニーズこそがデータ管理の方法と設計を進化させる原動力となり、それに必要なツールが用意されています。Tableau におけるデータ活用の取り組みは事業部門のユーザーから始まるのです。

これは大きな違いです。Tableau のデータ管理機能は、セルフサービス分析のために構築されており、プラットフォーム自体に統合されているため、従来のビジネスユーザーは何ら影響を受けることなく使用を継続することができます。また、新しいデータ探索者は分析スキルを身につけることができ、IT 部門はデータ管理に力を注いでデータカルチャーの変革を推進できます。プラットフォーム全体が、最終的には全社規模の分析を実現するためのコラボレーションの場となるのです。



データに自信を持ったユーザーは、より複雑な疑問を持ち、新しいデータ資産を自分で作成したいと考えようになります。つまりこのことは、データが明確に記述され、適切に管理され、アクセス可能でなければならないことを意味します。

— Tableau データカルチャー

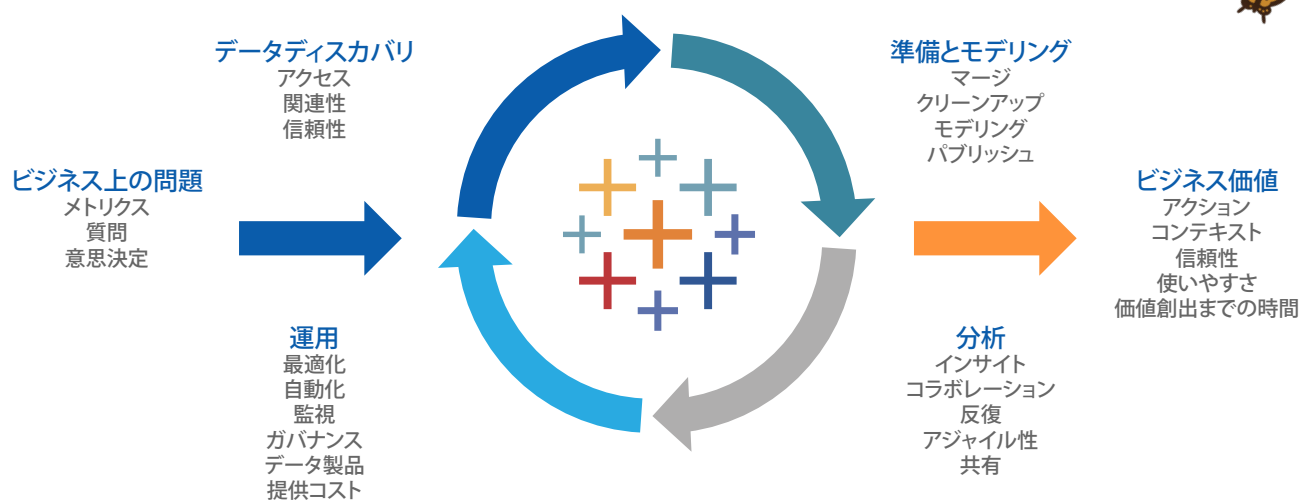


価値創出までの時間

データカルチャーを築くうえで最大の障壁の一つは、一言で言えば「アクセス」です。従来の環境では、データドリブンを求めるビジネスサイドと、絶えず変化するデータ環境を適切に保護して管理するITサイドの間で、しばしば対立が起きていました。IT部門はもつともな理由でアクセスを拒否します。つまりポリシーを変更するときに何かの間違いがあると、組織内の不必要に多くの人が機密データにアクセスできてしまう可能性があります。

データファブリックは、IT部門と事業部門の協力を促進することでこの対立を和らげます。具体的に言うと、ガバナンスとセキュリティについて報告するレポートングモデルや、メタデータ、そしてビジネスルールを、それぞれの分野の専門家が企業レベルで作成するというボトムアップの方法論を採用しています。この方法論の下で、企業内の誰もが自分の方法とペースで作業できます。Tableauの価値を特に実感できるのは、まさにこのスポークからハブへと向かうアプローチです。事業部門は使い慣れた方法でデータに迅速にアクセスでき、IT部門はデータガバナンスプログラムを拡張することができます。

Tableau はデータファブリック設計に必須の分析パイプラインをサポート



データディスカバリでは、場所に関係なく必要なすべてのデータを構成および整備することで、データファブリックを使ってビジネス上の疑問に答えることができます。Tableauのディスカバリエクスペリエンスは、拡張可能なセルフサービス用の組み込みガバナンス機能と、さまざまなワークフローでパーソナライズされた結果/推奨を提供するツールによって、ビジネス価値を高めるように設計されています。

標準的なワークフローの構成要素は次のとおりです。

- ・ 既存のデータを再利用して新しいデータセットを組み立てる
- ・ 新たに利用可能になったデータを追加する
- ・ データ準備作業で新しいデータをマージしてクリーンアップする
- ・ 特定のビジネスニーズに合わせてデータをモデリングする
- ・ 新しくモデリングした Tableau データソースを分析用にパブリッシュして、[Tableau Catalog](#) に組み込む

将来的に Tableau Catalog には、Tableau ですでに使用されているデータだけでなく追加のコンテンツも含まれる予定です。これには、Salesforce データ、およびアップストリームのデータソースやエンタープライズデータカタログと交換されるメタデータが含まれます。データが見つかったら、自動モデリングやガイド付き自然言語クエリなどの強力かつ信頼性の高い Tableau 拡張分析機能を使用することで、組織は増え続ける膨大なデータを有効活用し、より広範囲のビジネスユーザーがインサイトを発見できるようになります。

データは、利用者がそれを信頼してこそ、真の価値を提供できます。Tableau はコンテキストを加味したデータ品質を可視化するので、ユーザーはその品質が要件を満たしているかどうかを簡単に確認できます。データ品質に関する警告やデータソースの最新性などの品質指標を、ダッシュボードに表示される [データの詳細] や Tableau Catalog 内で確認できます。さらに、データのコンテキストや、他のデータソースとの関係を理解するのに役立つ詳細も確認できます。ソースやワークブックを誰が作成したか、いつ作成または更新されたか、誰がそのデータを使用しているか、他の Tableau コンテンツとどのように関連しているかを確認できます。

生データが、分析に最も適したクリーンな状態であることはほとんどありません。[Tableau Prep Builder](#) には、コードを書かずにデータを結合、形式変換、クリーニングする視覚的かつ直接的な方法が備わっているので、組織では従来のデータ準備方法が変わります。Tableau Prep Builder を使用すると、アナリストやデータ所有者はすばやくデータを整理して認証でき、インサイトを得るために多くの時間を費やせるようになります。この機能は Tableau の一部として提供されるので、チーム間でのアウトプット共有がスムーズに行われ、データ準備と分析の間のギャップが埋まります。

適切な能力を持つことは重要ですが、それと同様に、DataOps に関わるすべてのユーザーがそれを理解して適応することも重要です。それによりユーザーは分析機能を信頼し、自信を持ってデータドリブンな意思決定をすることができます。反復可能なプロセスにより、スケーリングが可能になります。DataOps とデータファブリック設計を組み合わせることで、ビジネスデータ所有者はエンタープライズデータと分析に関する豊富なコンテキストと全体像を提供できます。Tableau は、データの発見、準備、モデリング、分析、データコンテキストの運用からなる繰り返し作業を促進することで、洗練されたデータをデータファブリックに戻し、価値を迅速に生み出すことができます。

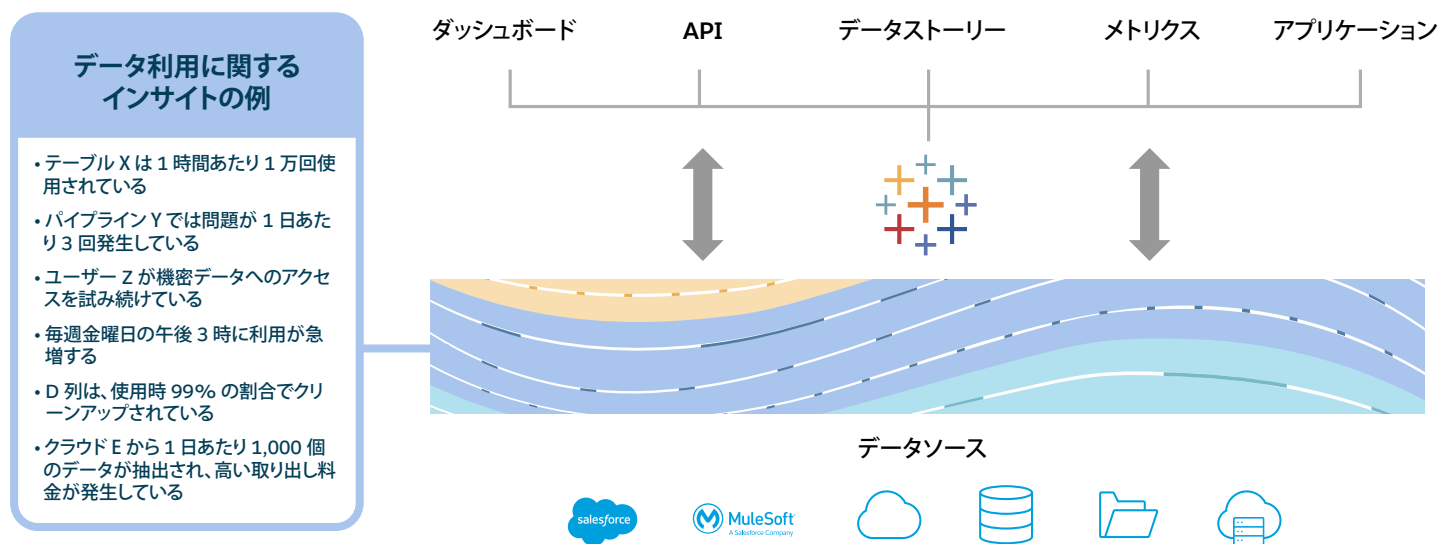


データを理解する

データファブリックを利用することで、企業内のすべての人がコンテキストに従ってより効率的に作業できます。データを見てそれを理解することは、データ活用の一部にすぎません。データを探索したり、データがどのように利用されているかを把握したりする必要もあります。データ利用はデータファブリック全体に及ぶので、組織にはデータソースから「ラストマイル」に至るまでのインサイトが必要です。

Tableau は、データ利用に関する独自のビューを提供することでデータファブリック設計を強化し、運用コストを最適化しながら、ダッシュボードとデータパイプラインに関するインテリジェントな提案によってデータの鮮度とパフォーマンスを確保します。

データ利用をきめ細かく把握することで、資金がどのように使われているのかに関するインサイトが得られるほか、最適化の機会を特定し、サービス提供コストを削減することができます。



データ分析における「ラストマイル」とは、データ分析を実用的なインサイトにつなげる最終段階です。しかしこの段階は、データ管理やコラボレーションの問題が誰の目にも明らかになる場所でもあります。事業部門のユーザーは、探しているデータがどこにあるのか、また見つかったデータを信用できるのかどうか分かりません。IT 部門は中央ストアから出たデータがどのように使われるか分からないため、事業部門が必要なデータを得るように支援できません。

Tableau は、セルフサービスによるデータ利用を本当の意味でサポートすることで、この対立関係を解消します。Tableau のセマンティックレイヤーを介して、標準化と透明性を備えたデータモデルがすべてのデータソースに提供されます。このモデルは、生データをビジネスに適したメタデータに関連付けることで簡素化するほか、スキーマが使えるため迅速な分析を実現します。

Tableau のメタデータ機能は再利用を促進し、古くなったデータや未使用データを削除し、データの可用性とパフォーマンスを継続的に向上させます。既存の関連コンテンツを再利用することで重複作業を削減し、分析のための時間をより多く確保できます。Tableau は、全社規模のデータ使用パターンや系列に基づいてデータソースをインテリジェントに推奨することで、再利用を促進します (たとえば、特に頻繁に使用されるデータベーステーブルを特定します)。メタデータを介してデータの再利用に関するインサイトが Tableau から得られるので、データ管理者はどのデータが誰によってどの程度の頻度で使用されているかを理解し、それに基づいてソースのクリーンアップの優先度を決定できます。またサイト所有者や作成者はデータを認証できます。データ認証の状態はデータユーザーに表示され、さまざまなデータソースで信頼性と再利用が促進されます。最後に Tableau は、可能な場合にデータウェアハウスなどの外部データソースにインテリジェントに操作をプッシュダウンし、高速なフロー実行とデータ移動コストの削減を実現します。

データ投資の進化

データファブリックは多数の相互運用可能な機能で構成され、それぞれが独立して変更可能であるため、各部門は自分たちのペースで設計を成熟させることができます。多数のデータ配信スタイルと多様な環境が同時にサポートされるので、すべてを一度に変更する必要はありません。皆様の環境では、既存のデータ統合、仮想化、セマンティックレイヤーなど、企業全体に広がるデータへのアクセスを可能にする基盤がすでにある程度構築されていることでしょう。





Tableau のデータファブリックに対するアプローチは、既存の投資を統合、サポートまたは強化する特定の機能を活用して、データファブリックアーキテクチャをサポートするというものです。これには次のものが含まれます。

データの存在場所を問わずアクセス可能。 データソースの種類 (リレーショナル、運用、分析、SaaS アプリケーション、ファイル) や存在場所 (クラウド、オンプレミス、エッジ、またはその組み合わせ) とは無関係に、100 以上のコネクタ (今後も追加予定) と 1 つの API ライブラリを使ってデータソースにアクセスできます。Tableau は、Salesforce データへのファーストクラスの接続性、MuleSoft による拡張性、および SDK を備えています。Tableau ではデータソースでメタデータにアクセスし、仮想化レイヤーを作成してデータの移動を減らし、複数の環境間でのシームレスな分析ワークロードとアプリケーションを実現できます。

新しいデータタイプとストレージソリューションのサポート。 [Amazon Redshift](#)、[Google Big Query](#)、[Databricks](#)、[Snowflake](#)、[Microsoft Azure SQL Data Warehouse](#) など、データレイクやウェアハウスを介した大量の構造化/非構造化データの処理に役立ちます。

安全なデータアクセスと共有。 仮想接続により、データ所有者はさまざまなワークブック、データソース、データ準備フローで使用できる、一連のテーブルへのアクセスを共有することが可能です。アクセスの安全な管理、アジャイルな物理データベース管理、データ増殖の抑制、一元的な行レベルのセキュリティを実現します。

Tableau エコシステムにおけるデータの全体像を把握できる分析カタログ。 データがどのように接続されているかが表示され、データのキュレーション、データ系列の可視化、インパクト分析のサポート、品質指標の表示が可能になります。エンタープライズデータカタログとの統合機能により、メタデータが交換され、両方のアプリケーションのコンテキスト内で適切な情報とガバナンスが提供されます。

セルフサービスによる視覚的かつ直接的なデータ変換。 迅速かつ容易な分析、迅速な反復作業、アップストリームデータ所有者の負担の軽減が可能になります。

メタデータ主導の自動化と最適化。 データ準備やデータ品質プロセスを含む分析パイプラインに AI と機械学習を適用します。

ビジネス主導のセマンティックレイヤー。 分析データにビジネスコンテキストと意味が付与されるので、該当するデータの発見と理解が向上し、利用者はデータをより良く理解できるようになります。

DataOps の大規模運用のサポート。 DataOps ツール向けに API 主体で設計されています。また、包括的なデータおよび分析環境の統合を目指して設計されています。

無料トライアル を始めましょう



Tableau Cloud トライアル版
には Tableau Prep Builder と
Tableau Data Management が
含まれています。

今すぐ始める

まとめ

これからのリーダーは、企業にとって財務面とイノベーションの両方で最も大きな見返りと価値をもたらす領域として、分析分野を開拓し続けるでしょう。また、データファブリック設計というバックボーンに基づき、信頼性の高いデータ基盤の構築に向けて明確な道筋を進んでいくでしょう。

Tableau を使用してデータファブリックの価値を高めることを計画している組織の皆様のために、3つの推奨事項を以下にご紹介します。

- 1. まずビジネスニーズから始める。** この取り組みで特に重要な部分の1つは、変化に備えるためにコスト削減を行う場合でも、生産性やイノベーションの向上を推進する場合でも、どのようなビジネス価値を実現しようとしているかを理解することです。それを加速させるには、中核となる事業目標と成果、誰がどのデータから利益を得るか、既存のデータがこれらの事業成果とどのように対応しているか、どんなチャンスやハードルがあるかを早い段階で特定してください。ビジネスニーズから始めることで、ユースケースが明確になり、事業部門が主導する情報アーキテクチャ戦略に向けた道が開かれ、データファブリックをそれに適応させることができます。
- 2. 事業部門と IT 部門を結束させる。** データファブリックは、高品質かつ信頼性の高いデータという共通のビジョンのもとに企業を1つに結束させる柔軟なフレームワークです。この設計指針に従うリーダーは、コラボレーションと柔軟性を徹底的に追求し、しかもガバナンスとセキュリティを犠牲にすることなく、競合他社を上回るようになるでしょう。企業内の誰もが自分に関係のある方法でデータを活用し、データドリブンな意思決定を直感的に行えるようになれば、データカルチャーを大規模に築くことができます。
- 3. すでにあるものを再利用する。** データファブリックは、全社規模の統合を通して既存のデータ管理スタックを活用し、それを改善します。今ある小規模なものから始めて、時間の経過とともにデータファブリック設計を成熟させることができます。Tableau を活用すれば今すぐ価値が生まれ、皆様の将来の取り組みにも大いに役立ちます。

Tableau を活用してデータファブリックに対するビジョンを実現するには、弊社の担当者にご連絡いただくか、tableau.com/data-fabric にアクセスしてください。



インサイトを リアルタイムで提供

Salesforce Customer 360
の顧客データプラッ
トフォームである
Tableau で、
リアルタイムデータの
力を活用しましょう。
変化する環境で、あらゆる
チームのあらゆる人が迅
速にアクションを取れるよ
うに支援します。また、信
頼できる分析機能とクラウ
ド全体における単一の顧
客ビューによって、利益の
改善を実現します。

すべてのデータの
自動分析

インテリジェントな
予測分析

コラボレーション対応の
リアルタイムのインサイト

詳細はこちら

TABLEAU



Tableau について

Tableau は、お客様がデータを見てそれを理解できるように支援します。世界をリードする分析プラットフォームである Tableau は、強力な AI、データ管理、コラボレーション機能を備えたビジュアル分析を提供します。個人からあらゆる規模の組織に至るまで、世界中のお客様が Tableau を選び、その高度な分析を使用して、実効力のあるデータドリブンな意思決定を促進しています。詳細については、tableau.com を参照してください。

また、Tableau は、企業を顧客データの共有ビューにつなぐ顧客関係管理 (CRM) プラットフォームの Salesforce Customer 360 と統合されているため、ワークフローに直接埋め込まれた直感的に使用できる強力な包括的な分析機能を、すべての部門で活用できます。顧客データを仕事の中心に据えることで、顧客や従業員との関係を成長させることができます。

 **tableau**
from  Salesforce

